

# 伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後最終主日礼拝

## 2020年11月22日

### 前奏：

#### 招きのことば：詩編 30 編 11-13 節

主よ、耳を傾け、憐れんでください。主よ、わたしの助けとなってください。  
あなたはわたしの嘆きを踊りに変え | 粗布を脱がせ、喜びを帯としてくださいました。  
わたしの魂があなたをほめ歌い | 沈黙することのないようにしてくださいました。  
わたしの神、主よ | とこしえにあなたに感謝をささげます。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば：

**会衆：**私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。  
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に  
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うため あなたが  
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。  
(短い黙祷を持ちましょう)

**牧師：**何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・  
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ  
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお  
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、  
十字架につけられ、死して葬られ、  
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。  
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの  
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたは私たちを大切にしてくださり、私たちのために救い主をお送りくださいました。人となってくださった神の子、イエス・キリストによって私たちはあなたの愛を知りました。イエス様は私のためにきよい生涯をお送りくださり、私たちを罪から贖うために十字架でいのちを与えてくださり、私たちを新しくするために死に打ち勝ってよみがえってくださいました。またあなたは聖霊をお送りくださって、あなたの約束のみ言葉を語るものを遣わし、み言葉によって私たちの内に主イエス様を信じる信仰を作り、また育ててくださいます。

今はまだイエス様の救いの確かさやすばらしさは信じる私たちにはわかりませんが、最期の日には、あなたのただしい裁きがすべての人に明らかになります。どうか私たちを用いてください。あなたの証し人として人々にイエス様の福音をお伝えすることができますように。どうか私たちを用いてください。イエス様の福音のために苦勞し、犠牲を払っている方々をお支えることができますように。

私たちに託された使命を感謝し、今週も喜びをもって謙遜に人々の役に立つ一週間を送ることができますように、互いに愛し合い、高めあう一週間となりますように。新型コロナ・ウィルスの感染は縮小の気配がありません。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

## 使徒書朗読：エフェソ 1:15-23

こういうわけで、わたしも、あなたがたが主イエスを信じ、すべての聖なる者たちを愛していることを聞き、祈りの度に、あなたがたのことを思い起こし、絶えず感謝しています。どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の源である御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし、心の目を開いてくださるように。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるように。また、わたしたち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるように。神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました。神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。

## 福音書朗読：マタイによる福音書 25章 31-46節

「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、羊

を右に、山羊を左に置く。そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気の見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせず、のどが渴いたときに飲ませず、旅をしていたときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気の時、牢にいたときに、訪ねてくれなかつたからだ。』すると、彼らも答える。『主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渴いたり、旅をしたり、裸であったり、病気であったり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかつたでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言うておく。この最も小さい者の一人にしなかつたのは、わたしにしてくれなかつたことなのである。』 こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。』

### 讚美歌 268 番

1. 真心(まごころ)もて 仰ぎまつらん 世のため 呪(のろ)いの木に つき給いし  
救いの主(ぬし)、我が主(しゅ)よ
2. 我が罪科(つみとが) 汚(けが)れもみな 洗いて 今より後(のち) 君のものと  
なさせ給え、我が主よ
3. いと豊けき 恵みをもて 冷えたる 我が心に 清けき火を  
燃やし給え、我が主よ
4. 死の川波 打ち寄すとも 安けく 御手(みて)によりて 天(あま)つ岸に  
着かせ給え、我が主よ アーメン

### 説教：「最も小さいものの一人にしたこと」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

聖霊降臨後最終主日です。イエス様の生涯をたどり十字架、復活、昇天、そして聖霊がくだって教会の誕生した聖霊降臨主日を祝ったあと、聖霊降臨後の主日を今日まで重ねてきました。イエス様が教えられたことを毎週礼拝で聞いていきました。今日は教会のこよみの最後の日曜日です。来週から教会の新年、クリスマスを待ち望む待降節が始まります。

イエス様は世の終わりに私たちを迎えにきてくださると約束していただきました。イエス様が再び来てくださって、この世のすべてを完成し、新しい世を来たらせてくださいます。聖霊降臨後最終主日には、全世界の教会で毎年、世の終わりについて覚えています。

今朝と一緒に聞きましたマタイによる福音書 25 章 31 節からの箇所ではイエス様は栄光に輝いて天使たちをしたがえて栄光の座につき、すべての国の民がみ前に集められて、ちょうど羊飼いが羊と山羊をわけるように彼らをより分けるとありました。そのときに裁きがあるということです。ヘブル人への手紙 9 章 27 節には人間は一度死ぬことと、そののちに裁きを受けることが定まっていると記されています。死は必ず来ます。世のおわりも必ず来ます。そのあとで公平な裁きがある、と言われていました。私たちは生きているときは人生の意味や目標を考えて歩むのですが、だれも例外なく死ぬ時が来る、そしてそのあと羊と山羊が分けられるような神様の裁きがあると聖書は告げています。

今朝はマタイの 25 章 31 節から読み始めましたが、イエス様はマタイの 24 章から世界のおわりについて語り始めています。それはちょうど日曜日にエルサレムのまちにろばの子ののって入城した、その週のことでした。木曜日には捕らえられてイエス様ご自身が不当な裁判を受けて金曜日には十字架につけられる、ご自身の死の直前のことでした。ここでイエス様は、世の終わりにはいろいろな前兆があること、また、世の終わりは思いがけないときにくるのでいつも信仰的に目をさまして備えているようにと教えられました。また、この人生をどう送るのかも教えておられます。神様から与えられているいろいろな才能や環境を眠らせておくのではなくて、リスクを覚悟でいのちがけでそれを用いて、人々の役に立って実を結ぶ人生を送るようにと励ましてくださいました。イエス様はこのような世の終わりの一連の教えの締めくくりとして、羊飼いが羊と山羊を分けるように人を分ける裁きについて話しておられます。

その裁きの内容を見てみますと、羊を右に、山羊を左にわけて、右の人たちを祝福して天の御国を受け継ぐようにと言われ、左の人たちには永遠の火の罰を受けるといわれます。右か左かで、その間はありません。では裁きの内容は何でしょうか。

小さいもの、取るに足りない者をおぼえて支えたり、訪ねたり、もてなしたり、お見舞いに行ったりするかどうか、ということでした。助けても自分の利益になりそうにない方々を自分の身内のように大切にすることは、イエス様を大切にしたということだ、とおっしゃいます。そ

のような愛の行いがあったかどうかで、右と左に分けられるのです。口先では、愛が大切です、愛し合って生きていくことが人間としての幸せです、といくら立派に語ることもできて、私たちは人生を自分のたてた計画や目的や生きがいを道しるべに歩きやすいものです。そのようなときに私たちが口にする愛や親切は、自分の人生のために利益になる人を愛したり、お世話になった人に感謝をしたりする範囲に限られてしまいがちです。とてもなんの得にもならないことがわかっているのに無条件で飢えや渇きに苦しむ人を助けたり、自分の寝床を旅人に明け渡したり、牢に捕らえられている人々を自分も同じ危険をおかしてまで訪ねたりする人は少ないでしょう。イエス様はしかし、そのことが裁きを分けるといわれています。

イエス様の前では心の中がすべて明らかにされます。日常生活でまったく考えもしない、いいとわかっているけど心にかけていない正しい行いをイエス様は示しておられます。口先では愛を語りながら、実際にはまったく自分中心である私たちの偽善を、イエス様はみ言葉によって示しておられます。

今は恵みの日です。そのような私たちのために、イエス様はこのお話をされたあと、十字架について私たちのような愛のない、取るに足らない罪びとのために命を与えてくださいました。それは私たちに神様の正しい赦しを与えるためでした。私たちの自分でどうにもできない罪深さを、イエス様が代わりに償ってくださいました。イエス様とひとつにされる洗礼によって私たちはイエス様に免じて神さまから正しく罪赦されます。私の罪の罰をイエス様が十字架の苦しみと死によって代わりに受けつしてくださったからです。私が永遠の火の裁きを受けなければならぬところを、イエス様が私のかわりに罰せられてくださったからです。そんな価値ある救いを受けるために私たちにはそれに見合う何も差し出すことはできません。神様が私に与えたいと願ってくださる恵みです。天地創造のときから神様は私たちのために御国を用意してくださいました。大きな感謝をもってイエス様を信じます。

イエス様は三日目に死からよみがえってくださいましたが、洗礼によってイエス様とひとつにされた私たちは自分の罪に死んでくださったイエス様の新しい命を内に宿すことになるのです。すばらしいことですね。いくら感謝してもしきれない光栄なあふれる喜びを、隣人に返していくのです。そのとき知らず知らずのうちに、そう、自分でも気づかないうちに、飢え乾く人々を顧み、もてなし、訪ねていく愛の実践をさせていただくのです。

4つの種のお話がマタイの福音書の13章に出てきますが、イエス様のみ言葉を聞いて、自分と関係のないことと思う道端の種ではなく、また少し聞いて喜び、でもまたすぐ忘れてしまう岩地のような心ではなく、そしてイエス様を信じているのに、自分の価値観や楽しみという茨もそこに生え放題になって、イエス様への感謝を表すことにもつばら心を用いずに、結局実を結ばない茨の中の種であってはなりません。イエス様のみ言葉を聞いて、自分のような罪びと

のために愛をもって死んでよみがえってくださったイエス様を信じ、心を一新していただいて進んで小さな人々を大切に歩いていきましょう。

マタイによる福音書 25 章のこの箇所では、マタイの福音書全体から見るともう少し深いメッセージが語られています。それは「わたしの兄弟であるこの最も小さいものの一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである、という 40 節や 45 節のみ言葉にあらわれています。イエス様はマタイの福音書 18 章で、小さいものを社会的に弱い立場に追いやられている人々というよりも、子どものように、純粋にイエス様を信じている人のことを指しています。また、兄弟をいつも一緒にいる仲間のことというよりも、イエス様を信じている信仰の兄弟を指しています。イエス様を信じているお互いをつまづかせたり、軽く見たり、助けることをあきらめてほかのことに忙しくしたりしないようにとされています。そして、マタイの福音書 10 章を見ると、イエス様は弟子たちを派遣して天の御国が近づいたと宣べ伝えるように命じています。弟子たちは迫害にあい、苦しめられます。それで、語る人は人々を恐れなくて神様の福音を伝えるようにと励まされています。また受けるには、イエス様を受け入れるようにイエス様が遣わしたこの方々を受け入れるようにと励まします。マタイの福音書 25 章の「わたしの兄弟であるこの最も小さいもの」というのは、イエス様を信じ、イエス様に遣わされてみ言葉を語った弟子たちのことを意味しています。

イエス様のことを苦しみを覚悟で伝えているイエス様の兄弟である最も小さいものはひとりも放っておいてはならない、とイエス様はおっしゃっています。多くの方は、自分の救いのために来られたイエス様を受け入れずに苦しめ、十字架につけてしまいました。同じように、イエス様の救いのメッセージを語るために遣わされた弟子たちを、人々は理解せず、脅し、苦しめ、軽く見て、受け入れません。私たちはこのような最も小さいものを助けるのです。福音のために牢にとらわれているなら、自分も同じ仲間と思われる危険を承知で訪ねていきます。食べ物、飲み物、着るものをもって支えます。福音を伝える旅を支え、健康を損ねると力になるのです。

世の終わりに、イエス様はみ言葉をさらに広く、深く、宣べ伝える人々を召して遣わします。私たちお互いもそうですが、そのために主が身近において鍛えて遣わす働き人も起こされます。滅びゆく世にあって、変わらない神様の愛を伝え続ける人々を支える心を、神様は私たちに与えてくださいます。世の終わりは、暗い恐るべきとき、というよりも、罪のために死んでよみがえってくださったイエス様の赦しといのちのメッセージが、多くの人々に宣べ伝えられて、家族が、友達が、隣人がそろって御国に迎えられるように、ともに祈りつつ歩む希望のときなのです。茨の中の種のように、自分の暮らし向きや快樂にうつつをぬかすことをやめ、主よ、わたしの目を開いて、イエス様の福音がすべての人に宣べ伝えられるために私にできることをなさしめてください、と祈ろうではありませんか。主は「わたしの兄弟であるこの最も小さいものの一人にしたのは、わたしにしてくれたことである」と言ってください。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

### 讚美歌 249 番 献金 献金感謝の祈り

1. 我罪びとのかしらなれども 主はわがために 命を捨てて  
つきぬ命を 与え給えり
2. あまつ御国の 民とならしめ 幹につらなる 小枝のごとく  
ただ主によりて 活かし給えり
3. たえにもとうとき みいつくしみや もとめず知らず 過ぎしうちに  
主はまず我を みとめたまえり
4. 思えばかかる 罪びと我を 探し求めて すくいたまいし  
主のみめぐみは 限りなきかな アーメン

### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。  
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。  
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。  
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。  
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 **アーメン**

### 頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああみさかえよ。 **アーメン**

### 祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、  
豊かにありますように。 **アーメン**

### 後奏